

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

		鹿児島県水産振興課		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・マグロ養殖業者の出荷用砕氷が島内で購入可能となり、出荷コストが低減する。 ・氷販売の無人化・自動化により経費が削減する。 ・利便性の向上により、素潜り漁業の出漁日数が増加し、経営安定する。 			
目標	漁業者への氷の供給量2,000トン/年	001		
事業実施主体	瀬戸内漁業協同組合			
実施地区	瀬戸内町地区			
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度		
	平成29年度	令和3年度		
助成金額	120,288千円			
事業計画の内容	氷の安定供給体制の再構築及び出荷コストの低減化のため、製氷施設（施設面積200.6㎡、砕氷設備10t/日、貯氷設備30t）を整備する。			
評価	取組の目標（KPI）			
	現状値	基準年	養殖業者以外H25年度（ 千円） 養殖業者H25～27年度（ 千円）	
		現状値	養殖業者以外R3年度（ 千円） 養殖業者R3年度（ 千円）	増加率 -34% 16%
		目標値	養殖業者以外H31年度（ 千円） 養殖業者H31年度（ 千円）	増加率 15% 12%
	成果目標			
	現状値	年間1,321トン（令和3年度末時点）		
	目標値	年間2,000トン（令和3年度末）		
	（1）現状値の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの数値は漁協の生産高実績（養殖魚は一部聞き取り値あり）と農林水産省の漁業経営体調査結果から算出した漁業所得率により算出。 ・製氷冷凍冷蔵事業の水製造販売の当期供給高を実績とした。 	
	（2）地域への経済効果（ハード事業のみ）		自動化により組合員の氷購入が24時間できるようになり、天気しだいでも夜間でも出漁できるようになった。	
	（3）所見		(2)の効果はあったものの、コロナ禍になり出荷が出来ず、氷の需要が減った。また、噴火により軽石が噴出し漂流した事により漁船の冷却水取水口が詰まる恐れがあり、出港が出来なかった為、期待どおりの業績が上がりなかった。	
（4）評価機関への意見等				
今後の改善方向等に関する分析		24時間水購入ができるようになったことにより、出漁するタイミングに対する考え方、オペレーションは変わってくると予想している。この効果は急激ではなく、徐々に出てくると考えている。また、R1年度は年明けからコロナの問題が開始ブレキがかかった影響も考えられる。コロナ禍が落ち着くことで、魚の需要が戻れば、出漁意欲の向上や養殖魚の出荷ベース回復により、本施設整備の効果も徐々に出てくると思う。 軽石については、濾し機へ軽石が侵入しないように改造をしたので、軽石による出漁機会への影響がなくなることも氷の需要増につながる。		